

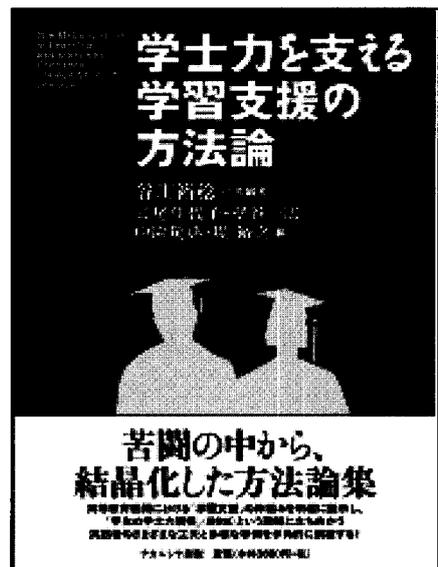
<会員による自著紹介>

学士力を支える学習支援の方法論

谷川裕稔¹⁾ (代表編者)
長尾佳代子²⁾・壁谷一広³⁾
中園篤典⁴⁾・堤裕之⁵⁾ (編)

- 1) 四国大学短期大学部
- 2) 大阪体育大学
- 3) 函館大学
- 4) 広島修道大学
- 5) 大阪体育大学

ナカニシヤ出版 (2012年発行)
定価 3,600円 (税別)



本書の目的は、高等教育機関における「学習支援」のあり方(方法)を考えるための素材を提供することにある。本書の特色と概要を簡潔に述べさせていただく。

近年、学習支援という営為は、「初年次教育」「高大接続」「リメディアル教育」など、主として大学1年次学生に対する様々な取り組みの中で重要視されるようになった。ただし「学士力」と「学習支援」との有機的連関を記述した論考は多いとは言えない。この連関を適切に記述するためには、「学士力」が入学(あるいは入学前)から卒業に至る学修期間全体(あるいは卒業以降も)を通して身につけるものであることを考慮すると、「学習支援」という営為をより広い視野で見つめることが肝要となる。そこで本書は、入学前・初年次に限定されない、2年次以降の支援をも、「学習支援」の一部として捉えることとした。これが本書の特色といえるだろう。

本書は8つの章と13つのコラム、学習支援関連用語集とからなる。第1章の「概説：学習支援と学士力」では、学習支援場面における教育・支援方法を考える上での基本的な枠組みを確認するために、「学習支援」の定義づけ、アメリカの学習支援の紹介、「学士力」概念に関する解釈、教育・支援プログラムおよび教授法・教育方法の概観などをおこなった。第2章の「教育・学習支援方法」では、学習支援を用いた授業技法のあり方を提起することに加えて、学習支援実践の場面で有効な方法論の可能性にも言及した。第3章から第8章では、教育・支援方法の実践事例を紹介した。それらは、学修年次全体を意識した内容になっている。そして「コラム」をもって各章の内容を補った。また「学習支援関連用語集」では、現在学習支援場面で使用されているタームを実践者の立場から整理した。なお本書は、①学習支援に携わる大学・短期大学・高等専門学校教職員、②「大学教育」(高等教育)分野を研究する研究者・大学院生・大学生のみならず、③専修学校専門課程・高等学校の教職員、④高等教育(大学教育)分野に関心のある一般読者などに読んでいただくことを想定している。本書が、わが国の高等教育場面における「学習支援」の枠組みと方法論構築の一助となれば、執筆者一同、望外の喜びである。